

2010年度

科目名	古文書学実習 I				
担当教員	山中 浩之				
配当	文財2			コード	52460
開期	前期	講時	金曜日2限	単位数	1
授業テーマ	古文書の読解と整理				
目的と概要	<p>歴史は1回しか起こらない。ほとんどは人々の記憶の中か、忘却のかなたへと消えていく。残される史料はごくわずかである。だから史料はいかなるものも貴重である。しかし史料はそのままでは紙片でしかない。それを1片1片読み解き、それらが相互につながりを持ち出したとき、紙片は意味ある史料として立ち現れてくる。そうして人々がそのとき、その場でどう生きようとしていたかが見えてくるとき、歴史が古文書を通して浮上してきたといえる。</p> <p>古文書の読解と、古文書を扱い整理する技法の修得をめざす。 なお古文書学実習の受講者は同時に古文書学を履修中である者を原則とする。</p>				
成績評価法	平常点(50%)、授業時のレポート(50%)を加えて総合的に評価				
テキスト	古文書のコピーを配布する。くずし字解説辞典 / 東京堂				
参考書	『概説古文書学 近世篇』/ 吉川弘文館 『史料の整理と管理』 / 岩波書店 『古文書調査ハンドブック』/ 吉川弘文館				
履修に当たっての注意・助言					
講義計画					
1. 古文書の整理 1 史料とは何か 2 史料の種類とその変化 3 古文書の様式1 4 古文書の様式2 5 近世文書史料論 1—近世文書はなぜ膨大なのか— 6 近世文書の種類と構造 7 古文書史料保存機関と文書館 8 古文書史料整理の原則 9 古文書の整理の具体的過程 10 古文書目録の作成 11 古文書調査の方法 12 古文書の保存と補修 13 書籍史料の整理—版本と写本 14 書籍史料の整理—版本はどのように作られるか 15 蔵書の整理 夏季休暇中に古文書調査・整理を大学博物館内あるいは羽曳野市内の旧庄屋家、においておこなう予定 また整理された史料のパソコン入力を行う。					